

大学生の Twitter 使用と社会関係資本及び友人関係に関する研究 —社会的寛容性の視点から—

平井 花朋

「平成 29 年度版情報通信白書」によると、10 代・20 代は LINE や Twitter を多用している。また大学生は、LINE と比較して Twitter においては自己アピールを行う投稿が多く、他人の投稿をスルーしやすい(高橋・伊藤, 2016)。これは他者に対する社会的寛容性の低下に由来すると考えられる。Twitter では見知らぬ他者と接触しやすいとされたが、叶・中田(2018)によると、大学生がフォローしている人のうち見知らぬ人は 40%に満たない。つまり、Twitter 上では身近にいる類似した他者とのつながりが多く同質性が高いと考えられる。しかし、自分と価値観や意見が異なる他者との交流が、社会関係資本を構築する上で重要だとされている(小林・池田, 2008)。つまり、異質な他者に寛容的な人が、対面でもネット上でも質の高い社会関係資本や友人関係を築くことができると考えられる。また彼らは、携帯メールより PC メールのほうが社会的寛容性を醸成するとしたが、社会的寛容性の高い人がメディアを適切に使い分けられることも考えられる。よって本研究では、①社会的寛容性の高い人が Twitter を使用して社会関係資本を醸成し、友人関係に満足するのか、②Twitter における不快な投稿に対する反応や行動が、社会関係資本の醸成や、友人関係満足度に影響を及ぼすのか、③上記①②の効果は、相手との関係や、モバイル端末による Twitter 使用か PC による Twitter 使用かによって異なるのか、を明らかにすることを目的とする。

上記の目的を達成するため、大学生を対象に 2018 年 7~8 月の期間で質問紙調査を行った。調査票では回答者の性格特性、自己認識欲求、メディアと Twitter の使用状況、不快な投稿の内容と対処、社会的寛容性、社会関係資本、友人関係満足度を尋ねた。回答に不備があったものを除き、Twitter アカウントを所持している 140 名を対象として分析を行った。

分析の結果、以下のことが分かった。①社会的寛容性の高い人が控えめな Twitter 使用によってネット上の社会関係資本を増やし、それに媒介に友人関係に満足した。また、社会的寛容性が対面・ネット社会関係資本を醸成した。②投稿者と面識がなく親密でない場合、投稿に反論等を行ったことで、対面の社会関係資本が増加した。③モバイル端末による Twitter 使用か PC による Twitter 使用かは、①②の効果に差異をもたらさなかった。しかし、PC による Twitter 使用は親密な相手への不快感を軽減し、その後の関係悪化を抑制する一方で、親密でない相手にはブロック等の行動を増加させた。モバイル端末による Twitter 利用は、親密な相手への不快感を増やし、ブロック等の行動を増加させ、その後の関係を悪化させた。

これらの結果から、社会的寛容性を高め、節度ある Twitter 使用を行うことが、社会関係資本の構築を促進し、友人関係満足度を高めるために重要だと示唆された。また、面識もなく親密でない相手と交流を行うことは、異なる価値観を持つ他者との接触に慣れ、対面においても新たな関係を構築する上で役立つと示された。

(指導教員 叶少瑜)